

2023

8-9月

# はしかけニューズレター

2023年度 第3号 通巻172号

2023年(令和5年)8月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
- (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～10月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 … 366人  
グループ数 25グループ  
(2023年7月31日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

青空に入道雲の湧きあがる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回のニューズレターでは皆さまが活発に活動されている様子を感じることができ、大変嬉しく思います。

博物館でも、コロナ禍で利用に制限がかかっていた展示物の見直しを行ったり、フロアークが再開されたりと少しずつもとの状態に戻りつつあります。一方でコロナ禍によりデジタル技術が社会に深く浸透したのも事実です。従来のあり方の中にも、新しい技術を取り入れたポストコロナ禍の博物館を、皆様と一緒に作っていかねばと思っています。

### ■企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」について

お米をテーマにした企画展「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」が開催中です！おこめをテーマに、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からなる展示によって、田んぼを場とした生態系、イネの植物学的情報、おこめと文化、おこめ調理の歴史を紹介しています。期間は2023年11月19日(日)までです。

### ■びわ博フェス2023について

本年度のびわ博フェスは11月18日(土)～19日(日)の開催予定です。

グループの代表の方には、ポスター発表やワークショップの意向調査書をメールにて送付予定です。グループ内で相談して、ご回答いただきますようお願いいたします。

### ■ギャラリー展「プッカプカ美小生物展」について

「微小生物×アート！」をテーマにしたギャラリー展「プッカプカ美小生物展」は盛況のうち幕を閉じました。皆様応援ありがとうございました。

### ■草津近鉄百貨店での環境学習センターのイベントについて

琵琶湖博物館の環境学習センターが調査器具の貸し出しセットのPRを草津近鉄百貨店で行いました。その際、はしかけ制度の紹介もさせて頂き、「田んぼの生きもの調査グループ」、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」、「緑のくすり箱」さまにはポスターや映像などの展示でご協力頂きました。ありがとうございました。

(中川 信次)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 39名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■5月21日(日) 第174回定例調査 場所: 天神川、御呂戸川 参加者: 21名

晴天の中、第174回定例調査を大津市にて実施し、久しぶりに4班での班別活動を行いました。河口、湖岸を担当した班では、なぜか今年南湖に多いホンモロコを始め、アユ等10数種類のお魚のほか、カネヒラの稚魚群も確認しました。

いっぽう車で調査に出かけた班は、駐車場所や川へのアプローチに苦戦し、魚種の数には低迷しました。琵琶湖博物館学芸員の田畑さんから依頼のあったヌマエビ類は、各班ともサンプル採取が出来ました。参加された皆さん、暑い中お疲れさまでした。(報告: 田中治男)

■6月18日(日) 第175回定例調査 場所: 琵琶湖博物館周辺水路 参加者: 18名

梅雨はどこに行ってしまったのかと思わせる良い天気にも恵まれました。琵琶湖博物館横のヨシ帯ではオオヨシキリの鳴き声が響いています。

調査場所は琵琶湖博物館・下物町周辺の水田地帯の水路及び堤脚水路です。ちなみに堤脚(ていきやく)水路とは堤防脇の雨対策水路のことで、湖周道路脇に設けられた水路のことです。

初参加の方を数名迎え、3班に分けて周辺水路を調査しました。下物町周辺の水田では今年は麦を育成されていたようで、水路に水がほとんどなく、水を求めてひたすら歩いた班もありました。残念なのは、6月1日から環境省が「条件付特定外来生物」として規制を行っているミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニなどの姿が多くみられ、さらにはスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)のピンク色の卵塊もみられたようです。

このような中でしたが、水路では多くのフナの子魚、タナゴ類の子魚をはじめとする魚に出会うことができ、在来種が元気で息づいている姿を観察することができました。今年は南湖でもホンモロコの姿を見かけたり、ツチフキの姿が多くみられるなど、琵琶湖を取り巻く環境が変わってきているのかもしれないと思えてきます。うおの会の活動が、今後の豊かな琵琶湖の自然保護に意味のあるものになってほしい、と思いました。(報告: 手良村知央)

#### 【今後の予定】

8月は調査はお休みです。9月は草津駅周辺の水路、河川の調査を予定しています。詳細は開催案内メールにてお知らせします。



### 【活動報告】

■ 5月28日(日) 場所:甲賀市甲南町 参加者:1名

七ツ池地藏堂・大師堂の道案内看板が新設されたことで、本来の参道が明確になり、その結果、甲賀准四国第19番札所の石碑を発見することができた。

対象寺院92カ寺のうち55カ寺で石碑の存在を確認した。



■ 6月18日(日) 場所:東近江市 参加者:2名

聖徳太子ゆかりの石馬寺で70年ぶりに開帳された十一面千手観音像を観る。

また、重要文化財に指定されている「修験道の開祖」役行者像はとても素晴らしいものである。

石馬寺は飯道寺とも深い関係にあるため、石碑などに山伏の痕跡が随所に見られる。



■ 7月2日(日) 場所:湖南市岩根 参加者:3名

甲賀准四国77番札所、善水寺の笈渡し会

飯道山行者講による柴燈護摩供、甲賀地域で3カ寺だけで今も継続されている。

(広徳寺・飯道寺・善水寺)



■ 7月8日(土) 場所:甲賀市水口町 参加者:1名

甲賀准四国 52 番札所、嶺峨千光寺

地元による千光寺の清掃奉仕活動の後、甲賀准四国の弘法大師像と厨子の保存状態を確認した。大きな厨子の中に入れられ大切にされていることが解った。



**【活動予定】**

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



### (3) 淡海スケッチの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 6名 】

グループ担当職員: 柗永 一宏

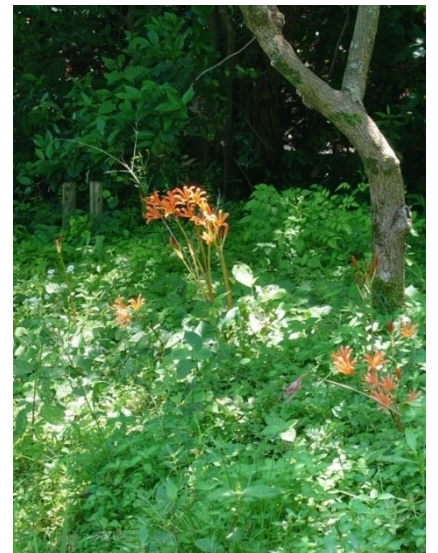
**【活動報告】**

■6月 18日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボや水族展示室でのスケッチおよび敷地内での吟行。  
ふだんはほとんど動かない山椒魚が息つきをすところを見ることが出来ました。  
また、博物館の壁を烏瓜の蔓が這っていて、白い花を咲かせていました。

■7月 16日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボでのスケッチおよび敷地内での吟行。  
青空に白い雲が浮いていて、湖の風が心地よい一日。  
生活実験工房の田んぼのそばにオレンジ色のキツネノカミソリの花が咲いていました。他に句材としては、ネジバナ、カンゾウ、烏瓜の花、蚊帳吊草、オオバコ、蛇莓、青栗、青柿、青胡桃、数珠玉、浮草など。



**【活動予定】**

8月 20日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館)  
活動時間 10時30分~(15時)

9月 17日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館)  
活動時間 10時30分~(15時)

博物館内でスケッチ等。  
また、希望者は博物館の敷地内や湖岸で吟行も行います。



※持ち物／スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。



#### (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員:橋本道範

##### 【活動報告】

- 5月27日(土) 参加者:5名  
各自の作業。綿の糸紡ぎ、苧麻の苧績み、地機の機織りなど。
- 6月7日(水) 参加者:4名  
各自の作業。綿の糸紡ぎなど。
- 6月24日(土) 参加者:4名  
工房のカラムシ(苧麻)がまた伸びてきたので、刈って苧引きをしました。前回作った竹製の苧引刀で問題なくできました。きれいな緑色の繊維がとれました。この色は日光に当てると茶色く変色してしまうので、今だけなのですけどね。
- 7月12日(水) 参加者:5名  
各自の作業。苧麻の苧績み、地機織りなど。



6月24日カラムシ苧引き

##### 【活動予定】

- 織姫の会  
7月29日(土)、9月13日(水)、30日(土)、10月14日(土)、25日(水)  
8月はお休みです。

(辻川智代)



#### (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ担当職員:里口 保文

##### 【活動報告】

- 瀬田川鹿跳橋周辺の調査 (参加者11名)  
日時:5月28日(日) 10:00~15:00  
場所:大津市瀬田川鹿跳橋周辺

##### 1. 鹿跳橋付近、左岸の調査

調査日は川の水位も低く、流れのない河床において、断層や節理のはしる露頭で興味深い調査ができた。接触変成を受けた中・古生層の堆積岩はホルンフェルスとなっている。岩石の表面には、白い破線で描く紡錘形、丸形、線模様などの堇

青石が観察できた。風化が進んでいて、新鮮な桜石は確認できなかった。また、ホルンフェルスに花崗岩が貫入する露頭では、ホルンフェルスの青灰色と花崗岩の淡橙色の明暗がくっきりと表れ、その境界部には白雲母がキラキラしている。ポットホールは、長径30cm、深さ18cmで丸く凹み、いくつもの小石が入り、回って、回って、出ていったようだった。小石がどの方向に回ったかを推理した。他に、砂岩のレンズ、チャートのレンズが入ったメランジュも見られた。

## 2. 鹿跳橋付近、右岸の調査

左岸から見て向こう岸に、白い大きな岩石ある。何だろう？と話題になるくらい存在感があり、確かめるために橋を渡った。白い岩石は2×2メートル位で、流れに洗われた花崗岩だった。水流により滑らかな凹みができ、ゆるやかな曲面状に磨かれて光り輝いている。ポットホールと同様に、水の流れに乗った小石のすべり台になったようだ。尚、この白い花崗岩は、後日の増水時には水没して見えない、と知らせて頂いた。他に、大きな黒雲母を含む花崗岩ペグマタイト、方解石が入った緑色岩、玄武岩質緑泥石なども確認でき、地質図に対応する岩石が観察できた。

### ■比叡山衣掛岩周辺のハイキング（参加者11名）

日時:6月10日(土) 10:00~15:00

場所:大津市坂本 大宮川林道から衣掛岩付近

#### 1. 比叡花崗岩体東部に貫入する二本の岩脈調査

産総研5万分の1地質図「京都東北部」には、花崗岩に貫入する二本の花崗斑岩の岩脈が記載されている。一方、琵琶湖花崗岩団体研究グループの地質学雑誌掲載の地質図では、一本は花崗斑岩、もう一本は花崗閃緑斑岩となっている。今回、この2本の岩脈調査をおこなった。調査地図のルートNo.②~⑧露頭で新鮮な岩石を採取して、構成鉱物を肉眼とルーペで、注意深く観察した。

- ②露頭では、一つ目の岩脈の花崗閃緑斑岩を採取した。採取岩石は長石がパフ状に浮き上がって見え、周辺を石基が囲み、角閃石が含まれる。
- ③は、花崗岩と花崗閃緑斑岩を採取した。2種類の岩石を並べて、石基と角閃石の有無、鉱物の集合状態の違いなどを確認した。花崗岩と花崗閃緑斑岩の岩脈の境目のようである。
- ⑥は、花崗岩で石英、長石、黒雲母からなる。
- ⑦は、二つ目の岩脈で、花崗斑岩を採取した。石英とピンク色のアルカリ長石がめだち、緻密な石基でとても固い岩石だった。
- ⑧衣掛岩は花崗斑岩で、大きな柱状で切り立っていた。ここで記念撮影。

#### 2. 感想

この調査では、お二人の先生に露頭調査のやり方と岩石の見方などを、詳しく教えて頂きました。岩石を同定するには、岩石の新鮮な面を見ないと解らないと、改めて感じました。岩脈となった花崗閃緑斑岩と花崗斑岩の理解が深まり、以前に、個人で採取した八王子山と壺笠山までの道の二か所で見つけた石が、今回の一つ目の岩脈で見られ、つながりを実感し、嬉しくなりました。また、衣掛岩と千石岩がつながる花崗斑岩岩脈と共に、琵琶湖をとり巻く環状岩脈にも意識が向くようになりました。

### ■今後の活動予定

8月27日(日)13:30~16:00 勉強会 琵琶湖博物館 実習室1の予定です。



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:金尾 滋史

### 【活動報告】

■7月12日 企画展示「おこめ展」オープニングセレモニーの様子の撮影を行いました。

今年度の総会を開催し、2023年度の活動計画を立てました。今年度は「駅前の風景」をテーマとして、急速に変わりゆく県内の駅前の風景の「いま」を残すことを目的として、撮影などを行う予定です。

### 【活動予定】

■8月27日(日) 撮影会 石山駅前の風景 JR石山駅改札口 10:00~

石山駅周辺および瀬田の唐橋、また京阪で移動しながらそれぞれの駅前の風景を撮影します。

■9月16日(日) 撮影会 守山駅前の風景 JR守山駅改札口 10:00~

守山駅前や旧中山道を歩きながら、建物などが急速に変わりつつある守山駅前の風景を撮影します。



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員:山川 千代美

### 【活動報告】

#### ■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング②

日時:5月23日(火) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室2 参加人数:2名

活動内容:5月17日の活動で標本リストと照合し状態確認をした化石の内、昆虫化石のクリーニング作業と同定を効率よく行うため、その手順と準備を行いました。化石を調べる場合、同定可能な形質が化石に残っているかどうか、一つ一つ、実体顕微鏡で確認する必要があります。そのため、翅・体節などに仕分けて、付箋を保存容器に貼り付けました。昆虫化石がどのような状態で土に埋まっているのかを見極めたり、同定の際、顕微鏡で昆虫化石を真上から見やすくするために、母岩の底面をどのように削ればよいかなど、具体的な今後のクリーニング方針について考えながら作業し、約20点の昆虫化石を仕分けることができました。



〔仕分けたものから順に机に並べました〕

#### ■服部川にて化石の観察・採集

日時:5月28日(日) 10:00~14:30

場所:服部川(三重県伊賀市) 参加人数:2名

活動内容:5月21日に川の水位が高かったため中止した服部川での活動を行いました。古琵琶湖発掘調査隊から2名、琵琶湖博物館の学芸員さん2名の計4名で、服部川の河床にて、化石の観察及び採集を行いました。

#### ■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング③

日時:6月7日(水)13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:4名

活動内容:今回も引き続き、昆虫化石の仕分けを行いました。始めに、前回参加したメンバーより今回参加のメンバーへ、どのように昆虫化石を仕分けるかについて説明を行いました。また、前回の活動時に、昆虫の体の部位を見分けるためには、昆虫の体のつくりを知ることが必要かもしれない話し合っていたため、今回の活動では、昆虫図鑑や第四次発掘調査までの報告書等の資料を見たり、メンバーが自宅から持ってきた実物の昆虫標本で体のつくりを観察しました。作業をしていると、元琵琶湖博物館学芸員の八尋先生が飛び入り参加で来て下さり、昆虫化石のクリーニングの進め方についてアドバイスをして下さいました。一気にメンバー達の士気が上がり、56点の昆虫化石について翅・体節などに仕分けることができ、昆虫化石の仕分けを終えることができました。



〔八尋先生から多くのアドバイスをいただきました〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング④

日時：6月14日(水)13:00~16:00

場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加人数：2名

活動内容：仕分けした昆虫化石に貼り付けた付箋に基づき、クリーニングを行いました。同定できそうな部位である昆虫の翅化石から、順にクリーニングに取り組みました。クリーニングする昆虫化石は、実体顕微鏡で見ると、とても大きく見えるのですが、実際には数mm程の大きさで、たいへんもろくて壊れやすいため、慎重に作業をする必要があります。実体顕微鏡下で、虫ピンの針先を使って、ほんの少しずつ昆虫化石の上にかぶっている土を取り除いていきます。取り除いた土は、昆虫化石を壊さないよう、細く柔らかい筆の先でそっと払います。息を詰めるほどの慎重な作業が続きますが、メンバー同士でお互いの作業の進み具合について声を掛け合い、難しい作業の時は相談しながら、8点の昆虫化石をクリーニングすることができました。



〔筆でやさしく土を払います。緊張！〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑤

日時：6月18日(日)13:00~16:00

場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加人数：2名

活動内容：引き続き、昆虫化石のクリーニングに取り組みました。参加メンバーは少なめでしたが、10点の昆虫化石をクリーニングすることができました。



〔手元に集中してクリーニング〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑥

日時：7月5日(水)13:00~16:00

場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加人数：4名

活動内容：この日も昆虫化石のクリーニングに取り組みました。合わせて、植物化石などクリーニング待ちの化石の状態確認を行い、必要であればアルコールを足すなど、保存状態維持の作業も行いました。この日はメンバー達の集中力が高く静かな作業となり、23点の昆虫化石のクリーニングを行うことができました。



〔クリーニングと保存作業の同時進行〕

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑦

日時：7月12日(水)13:00~16:00

場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加人数：2名

活動内容：今回は、昆虫化石と植物化石のクリーニングを行い、昆虫化石5点と植物化石11点をクリーニングすることができました。

化石は採集するだけでなく、クリーニングしたり、その後の同定作業を行うことで標本になっていきます。たいへん地道な作業が続きますが、一連の作業過程で学べることも多くあります。「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」に参加された方々が頑張って採集した化石が、クリーニング・同定を経て、今後の研究に繋がっていくよう、一つ一つの化石を大切に、メンバー達と協力しながら作業を進めていきます。



〔楽しみながら取り組んでいます〕

■その他

情報誌「びわはく」第7号(琵琶湖のフナについての特集号)の「フィールドからの新発見」のコーナーに、フナの咽頭歯化石についての記事として、古琵琶湖発掘調査隊の活動の様子が掲載されました。

【活動予定】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑧



日時:7月16日(日)13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑨

日時:7月28日(金)13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1



## (9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:米田 一紀

### 【活動報告】

■現在活動休止中です。

【活動予定】

■新型コロナウイルスによる規制が緩和されたため、今後、ザ! ディスカバはしかけの活動再開を予定しています。

活動再開の際にはぜひご参加ください。

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。

いつでもお待ちしております!



## (10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:美濃部諭子

### 【活動報告】

■6月21日(水) 潮干狩り 参加者7名

コロナ禍から昨年復活した里山の会の潮干狩りは、今年もお馴染みの三重県津市の御殿場浜で6月21日に開催しました。

昨年も報告したとおり、巨大地震の対策として行われてきた護岸工事・養浜工事が整然と完了していました。他に変わったところは、想定の域を脱せませんが、混雑・違法駐車・適正利用などについて自治会・周辺住民・関係者(漁業組合・事業者)・自治体等の合意形成が行われて無料駐車スペースがほぼなくなりました。地域にお住まいの方からすれば当然のことですが、猥雑でざわざわした懐かしい潮の香と海の記憶が、洗練されたデザインに統一されていく思いがありました。むかし人間の感覚なのでしょうね。

昨年に引き続き、マテ貝探しの方は殆どいない状況でした。我々の収穫

も、ハマグリ・アサリなどの2枚貝でした。人は未知の領域に惹かれるもので、多くの人が引き潮に呼ばれて沖の方に探し回ったものの、通常の海岸線近くで地道に探していた方たちの方が収穫は大でした、残念。

地域の環境や状況の変化について、年に一度の潮干狩り愛好家の立場だから見えてくるものもあるのかもしれない。



■7月1日(土) 里山体験教室 下見 参加者5名

夏の里山体験教室の下見を行いました。夏のプログラムは、「虫取り」「里山整備」「ハンモック」を実施する予定なので、まずは虫取りの現地確認をしました。その後、はしかけの森に戻って、里山整備で何をするか相談しました。森の中が暗くなってきたので、今回は雑木処理をしようということになり、伐採木にピンクテープを巻きました。最後は、恒例のハンモック作成の実践です。下見でハンモック作成を行ったので当日はバッチリのはずです。

この日も暑かったですが、はしかけの森の中は少し涼しく、森の中の気持ちよさに癒されました。



## ■7月9日(日) 里山体験教室 本番 中止

夏の里山体験教室は、雨天のため中止となりました。

### 【今後の活動予定】

8月19日(土) そうめん流し

9月9日(土) ハンモック虫干し、道具整備



## (11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年は、5月末日に早々と梅雨入りしてしまい、天候が不安定な日が多くなる中、定例会の日は両日とも天候に恵まれた。

### 【活動報告】

6月4日(日) みなくち子どもの森 お出かけ観察 10:00~13:30 参加者 6名

昨年行けなかった「みなくち子どもの森」へササユリの咲く時期に合わせて出かけた。

今年の春は早く暖かくなり、ササユリの蕾も早く上がり始めてしまった。この定例会の日まで開花を待っていてくれるのか心配したが、満開より少し早い時期に見ることができた。この園内でも「ササユリ隊」と名付けられたボランティアの方々が年間を通して作業をしてくださっていて、この日も案内・解説の場が設けられていた。

私たちは、“自分たちで見たものを見る”ために出発。

出発してすぐにササユリを発見。ここは、半日陰ということもあり、背丈は0.5mほどで1輪ずつ花・蕾がついていた。画像を撮り、匂いをかぎ、何年後に咲いてくれそうなササユリの葉や大きさも確認。

そんなふういつものことながら、駐車場から50メートルほどを進むのに30分以上を要した。「急ごう！」と言いつつ、サラサヤンマがメンバーの肩に留まり、またまた撮影と観察。眼の間が離れてるー、胸のすじが細いー。

テンションが上がってくる中、弱々しい小さいオオイヌノフグリを見つけた。これはひょっとして近年見られなくなったイヌノフグリ(花は小さくてピンク色をおびる、実に筋が入らず丸い)ではないかと…。そうだったらいいよね、と小さいものを捜し持ち帰って観察したが、実際には筋があり、オオイヌノフグリと分かりがっかりだった。

その後、ヨツバムグラの花(直径1mmほど、白、花弁4)、ノアザミの花粉管が出る様子、シダの仲間、ツリガネニンジン(葉の付き方、イヌザクラとウワミズザクラの見分け方(ちょうど横に植えられている、フサザクラも)、フサザクラの実、ヤブヘビイチゴとヘビイチゴの葉の形(この日はオヘビイチゴは見られなかった)、ヤマボウシの花(満開)、ヤマモモの実、を見た。

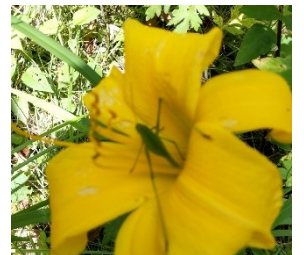
このみなくち子どもの森には、在来のミナグサ(本来、開発されていない山の林道などへ行かないと見られない)がある。2年前に訪れた際には探せなかったが、今回はすぐに見つかった。逆に外来のオランダミナグサが無くて、比較して観察することはできなかった。

7月2日(日) 博物館周りの観察 13:30~15:30 ころ 参加者 3名

雨天が続く中、この日は暑すぎるくらいの晴天。

この日の目的は、昨年見逃したノカンゾウ(もともと湿地などにあるが、ここのは品種が違うのだろうか)の花を見ること。2週間前くらいから咲き始め、咲き残りが3輪あった。蕾も少しあったが、果たしてそれは全部咲くのだろうか。次に、シナノキ、ボダイジュ(2週間前に花が見られた)の実を見てから、湖岸へ出た。5月中旬~6月に見られたオオヒキヨモギがどこにも見当たらないし、枯れた個体も見当たらない。さっさと咲いてさっさと種子を蒔いて終わるのかと驚いた。ネジバナ(満開、ねじれが急すぎてねじれていないように見えるものもある)、ヒナギキョウ(花、蕾)、フタバムグラ(花は未だ)、キカラスウリ(花が咲き残っていた、夜咲くため普通は午後にはほとんどが萎んでいる)を見た。

メンバーの一人が何気なくキカラスウリのことを調べたら、雌雄異株となっていた。ウリ科なので、同じつるに雌雄別々に花が咲くと思っていた。確かにどの花を分解しても雄しべしかない。秋にあんなにたくさん実が成っていたのは、全て雌株だったと言うことか? それならば雌花の咲き残りが何処かにあるはずだと思い、あちこち見て回った。その間に、クマシデ、ミズヒキ、ツボクサを見た。ツボクサは落ち葉下に花が隠れていて、その小さい花の綺麗さとそれを見つけたメンバーの感の鋭さに感激して、この日の観察は終了。その後、駐車場に着いてからもあきらめきれずにキカラスウリの雌株を捜したところ、1株だけ実の成りかけているものを発見できた。



### 【今後の活動】

■ 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。

■ 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

- 9月 未定 10:00~12:30ごろ 水草観察会パート5 小雨決行、ひどくなったらその場で中止
- 10月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



## (12) たんせいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

7月23日の13時30分から、琵琶湖博物館研究交流室で、第74回たんせいぼうの会総会を開催しました。対面参加5名に加えて、オンラインで2名、計7名の参加がありました。5月13・14日に文教大学東京あだちキャンパスで行われた日本珪藻学会第44回大会の報告、5月27日(土)に行われたたんせいぼうの小さな旅「安曇川のみずワタクチビルケイソウ調査」などの報告が行われました。また、COVID-19の感染再拡大に鑑みて、3密をもたらす対面活動の当面延期を決定しました。はじめてのたんせいぼう「珪藻の詰め込み教育」は、この夏は行わないことになりました。また、10月に予定しているたんせいぼうの小さな旅「福井県立年縞博物館」については、9月頃のCOVID-19感染状況を見て実行の判断をすることになりました。びわ博フェスについては、今年も「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」と共同でマイクロアクアリウムをジャックする予定ですが、やはりCOVID-19の感染が十分に落ち着いていたら、顕微鏡を直接覗く形でのワークショップを開催したいと考えています。

会員たちの活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。個人活動も活発です。ある会員は、堅田内湖のヨシ茎上の珪藻の研究を進めています。4月の調査で、琵琶湖でも冬期に優占する直径3μmほどの円盤形珪藻が、ヨシに大量に付着していることを明らかにしました。また、最近になって日本各地で発見され、滋賀県でも犬上川で見つかっている *Sellaphora tanghongquii* が、堅田内湖でもふえ始めていることを明らかにしました。別の会員は、多賀町のアケボノゾウ土地点周辺の古琵琶湖(蒲生層)の古環境復元に取り組み、論文をまとめつつあります。現在、影の会長が館と学会の業務で多忙な上、外来種や新種を含む新発見が次々と持ち込まれてパンクスカかっており、これが会員の研究が片付かない最大の原因になっています。

### 【活動予定】

COVID-19の感染拡大により、びわ博フェスへの参加以外は、再び計画が立てられない状況になっています。またびわ博フェスでの活動内容も、直前のCOVID-19の感染状況によって多少の変更を余儀なくされそうです。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



## (13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 50名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

6月から7月にかけて、全国各地で豪雨災害や猛暑にみまわれました。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年度に続いて、本年度もエビ類の分布調査を通常規模で実施しました。気候変動がだんだんと激しくなっていることや、転作田・休耕田の増加で、エビ類の発生時期がズレたり、見られなくなったりしている地域もあるように感じたメンバーも少なくなかったかもしれません。

### 【活動報告】

5月20日から21日かけて東近江市の旧八日市市西部地域で、また、5月27日に東近江市の五個荘地域でエビ類の分布調査を行いました。現在、採集したサンプルの詳細な種同定を進めているところですが、カブトエビ類やヒメカイエビのなかまの新たな生息地を発見できるなど、多くの成果が得られた調査になりました。一方、同じ地域でも水田によって注水や田植えの時期にかなりの差があり、メンバー全員が参加して一斉に調査を行う難しさも感じられました。なお、5月21日の調査では、滋賀県立大学生生き物研究会の学生3名の見学を受入れました。携帯用の顕微鏡や各種カメラを駆使して観察する若い人たちの様子に、案内した我々も大きな刺激を受けました。

- ・6月4日に、大津市の石山寺辺地区と赤尾町で、2種のカブトエビの分布調査を行いました。以前と同様にカブトエビ類の生息が確認された水田があった一方で、以前のようにカブトエビの姿が見られない地区もあったように感じました。
- ・5月下旬から6月上旬にかけて、上記広域調査の周辺地域や大津市近郊の水田、京都府南部等で、会員有志による追加の分布調査を行いました。また、過去にヒメカイエビのなかまが記録されている高島市や甲賀市の水田で、現在も生息しているかどうかを確認する調査も実施しました。
- ・7月8日と15日に、琵琶湖博物館実習室1で本年度に採集したサンプルの同定会を実施しました。なお、この同定会から、本年度に新規加入会員1名が参加されています。
- ・7月12日から23日にまで近鉄百貨店草津店で開催された「夏休み！自由研究応援展」に、田んぼの生きもの調査グループの活動を紹介するポスターを掲示しました。
- ・7月15日から開催されている琵琶湖博物館企画展示「おこめ展」に、田んぼの生きもの調査グループによるこれまでのエビ類分布調査の結果等をポスターで展示しています。

#### 【活動予定】

これから、標本の同定作業の結果を整理・分析する作業にとりかかります。本年度調査の結果報告会については、改めてメールで日程調整・連絡を行う予定です。

(山川 栄樹)



## (14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員：芦谷 美奈子

### <グループの活動について>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

次回の広域タンポポ調査は、これまでのサイクルのままですと、今年度末の2024年3月から予備調査が始まる予定です。現時点ではまだ不明ですが、実施されるのなら併せて活動を行う予定です。

### <「タンポポ調査・西日本2020」の報告書はまだ届きません(2023年7月現在)・・・>

2020年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019年3月～2021年5月分の3年分のデータを事務局に提出しました。事務局に問い合わせたところ、まだ完成していないそうで報告書が届く予定は不明とのことでした。入手したら、ご協力いただいた方々に連絡します。

#### 【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

#### 【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回(2025年)の広域調査に関して、まだどうなるか事務局の判断が出ていません。何か方針が決まりましたら、この場で報告いたします。

(文責：芦谷)



※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆6月の活動 6/21(水) 9組(幼児12名、大人9名)

梅雨の合間の暑い日となりました。田んぼと森がある生活実験工房は、生き物いっぱい。カエル、オタマジャクシ、トンボ、ヤゴ、カマキリ、ナナフシモドキ等々。子ども達は生き物を見つける度に声をあげ、捕まえようと手を伸ばし、追いかけて、網をふり、一生懸命です。お母さん達も、子どもと一緒に捕まえようと、虫を追いかける。時には「やったー」時には「キヤー」。賑やかです。変わらず、ガチャコンポンも大人気です。ホースで呼び水をして、ガチャガチャして、水が出ると、足をつけてヒンヤリした感覚を楽しめます。みんなに水をかけて喜ぶ子どもも。大人はまた「キヤー」です。

◆7月の活動 7/19(水) 12組(幼児名、大人名)

曇りと小雨と晴れの日。多くの親子が集いました。4月に植えたジャガイモを掘りました。6月の試し掘りでは小さかったのですが、いざ掘ってみると、やはり小さい！少ない！ウズラの卵サイズのジャガイモばかりでした。もしかすると種イモよりも少ない？それでも早速湯がいて塩を振って食べてみました。ホクホクのジャガイモ、小さかったですが、美味しい！みんなで食べてすぐになくなりました。

毎月見つかるナナフシモドキ、大きくなってきました。「どこにいた」「大きくなった」「足がとれやすい」など、親子で楽しみにしています。また、ミシシippアカミミガメがいました。良く見ると、穴を掘り産卵の準備をしているようです。子ども達が近くで眺めると、ビックリして首を甲羅へ入れてじっとします。しばらく放っておくと、いつの間にか逃げてしまいました。外来種のことも話して、親子で生き物について学ぶ機会でした。

◆ちこあその絵本ができました！「おいでよ ちこあそ はくぶつかんのもりで」

中村学芸員(べっちゃん)が、ちこあそに参加している親子が、お家でもちこあそや森の自然をふりかえったり、次の活動を楽しみにしたりしてもらいたいとの思いで絵本を作りました！読むと、まるでちこあそに来ているような気持ちなるよう、子どもの姿や工房の周りの自然を切り絵で表現しています。3回以上参加して下さった親子にプレゼントしています。持ち帰って早速読んで下さった親子から絵本に登場する子どもを見つけて「これぼくや」や「バンダナおじさんや」「またちこあそ行こ」とおしゃべりしていますと連絡くださっています。子どもが実際のちこあその体験と、絵本の世界でお家でも想像することが、成長の一助となると考えています。

◆8月はお休みです。9月をお楽しみに。



6月 田んぼの生き物観察



7月 ミシシippアカミミガメがいた



7月 小さいジャガイモ掘れた



絵本ができました！

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
9月	9月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ9月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
10月	10月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！





【活動報告】

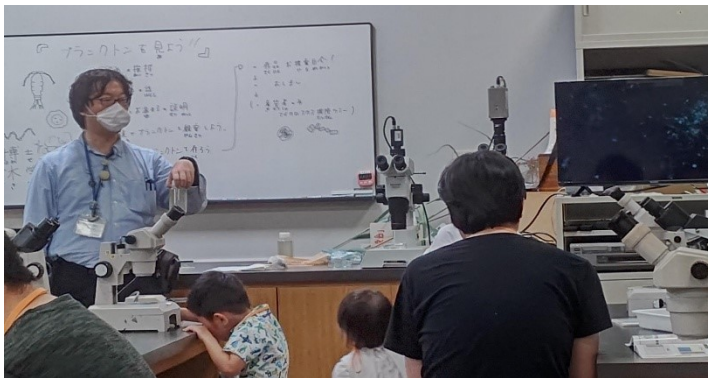
6月10日(土) プランクトンを見よう!

6月は恒例のプランクトンプログラムで、鈴木学芸員さんにお越し頂きました。あらかじめ琵琶湖で採集したプランクトンを顕微鏡で観察し、スケッチし、模型を作りました。

顕微鏡をのぞきながら、スケッチしながら参加者が不思議に思ったこと、面白かったことが自然と声になり、その声に鈴木博士が答える姿が実習室のあちこちで見られました。

そして、観察したプランクトンの中から1つ気に入ったプランクトンを選んで、おゆまる(合成樹脂)で模型を作りました。出来上がった作品をお披露目する時、鈴木博士から一人一人にコメントを頂くのですが、ここでも何のプランクトンで、参加者がどこに注目したのか汲み取ってくれ、さらにそのプランクトンのエピソードも添えて頂くので、参加者もびわたんメンバーも話に引き込まれていました。

プログラム終了後、希望者に【博士とマイクロアクアリウム探検ツアー】をしたのですがたくさん参加して頂きました。鈴木博士の周りに小さな子供たちが集まっている姿を見てとても嬉しかったです。



7月8日(土) 骨にふれてみよう!

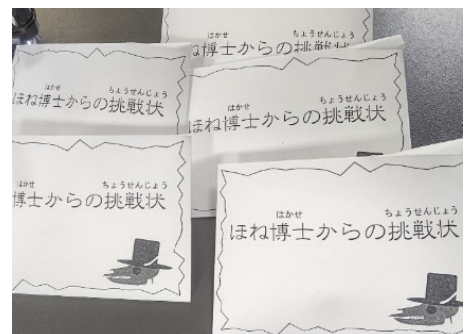
7月のプログラムは、はしかけグループ「ほねほねくらぶ」と一緒に実施しました。前回実施したのは三年程前!!何してたかな?と思い出するため、実施1ヶ月前に代表の西村さんに来て頂き打ち合わせをしました。

このプログラムは、ほねほねくらぶさんが活動で作製された骨格標本(シカ、イノシン、アナグマ、アライグマ、ネコ)を参加者に触れてもらい、じっくり観察して、紙粘土で模型を作るという内容です。

参加者は実習室に入った瞬間、目に飛び込んでくる骨格標本に「本物?」「さわっていいの?」とすぐに引き込まれていました。

よりじっくり観察できるように【博士からの挑戦状】をほねほねくらぶさんが用意してくれました。参加者の中には挑戦状をクリアし、「もっと問題欲しい!」と言う子もいました。挑戦しながらその動物の体、生活の仕方を解説して頂き、他の動物と比べる事でさらに理解が深まったと思います。

最後に、気に入った骨を1つ選び、紙粘土で模型を作りました。指骨、肩甲骨、大腿骨、なんと頭骨に挑戦する子も☆賑やかだった実習室も静かな骨と向き合う時間になりました。骨を真ん中に、参加者×ほねほねくらぶ×びわたんで、わいわい学び合える素敵な時間になりました。





## (18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:半田 直人

### 【活動報告】

■5月27日(土) 参加者: 2名

イタチの骨のクリーニング、カワウの骨のクリーニングの制作を行いました。

■6月10日(土) 参加者: 2名

ニホンザルの解剖、カワウの骨のクリーニングの制作を行いました。

またこの日は、7月8日開催予定のわくわく探検隊の打ち合わせを、はしかけ「びわたん」さん達と行いました。

■6月25日(日) 参加者: 2名

カルガモの骨のクリーニング、カワウの骨のクリーニング、次回開催予定のわくわく探検隊のための準備作業などを行いました。

■7月8日(土) 参加者: 3名

琵琶湖博物館において、わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはしかけの「びわたん」さんと共催しました。

プログラムとしては、まず動物一体分の骨をじっくり観察してもらった後、骨のレプリカをお渡しして、そのレプリカと同じ部位の骨をたくさんある骨の中から探し出してもらい、その後今まで見てきた骨の中から気に入った骨の一つを選んでいただいて、その骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

わくわく探検隊でワークショップをさせていただくのが、2020年の2月8日以来の約3年ぶりの開催となりましたので、私達自身もどのように行っていたか分からないようになっていたので、メンバーそれぞれが緊張して臨んだのですが、ご参加いただいた皆さんが、じっくり骨を観察していただいている様子や、紙粘土で骨の細かい所まで作りこんでいらしやる様子などを横で見させていただいて、とても真剣に取り組んでいただいているのが伝わってきて、とても嬉しくなりました。



▲わくわく探検隊の当日の様子です。

### 【活動予定】

8月は19日(土)と27日(日)に活動を予定しております。

9月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



## (19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■6月10日(土)11日(日) 参加者: 10名

活動内容:和のハーブを使ったワークショップ(守山市)

守山市の商業施設モリーブにて2日間にわたって「和のハーブを使ったワークショップ」を開催しました。

内容は①お茶エキスのアロマスプレー②ヨモギのバスソルトです。

お茶エキスのアロマスプレーは、5月に実施したお茶摘み体験の時に摘んだお茶の葉を、ホワイトリカーに1か月漬けて成分を抽出したチンキを精製水で薄め、ティートリーとレモンの精油を加え香りをつけたアロマスプレーです。

ヨモギのバスソルトは、琵琶湖博物館にて採取したヨモギを乾かして細かくして、死海の塩というバスソルトに加え、ラベンダーとローズマリーで香りをつけたバスソルトです。

アロマスプレーは、小さいお子さんをお持ちの親子連れの方に人気で、バスソルトは大人の女性の方に人気でした。商業施設でのワークショップの開催は、初めての試みだったので、準備のすすめかたや、当日の集客など、慣れない部分もありましたが、来ていただいたお客様がとても喜んでくださったので、よかったですと思います。

今後、びわ博フェスなど沢山のお客様が来て下さるイベントもあるので、よい経験になりました。





**【参加者の感想】**

- ・外部でのイベントは初めてでしたので集客に心配しましたが、そこそこ来てもらえて、博物館の活動も知ってもらえました。
- ・スタッフとやっつ、私もアロマや蓬の薬効などを教えて頂きとても楽しかったです。

■6月25日(日) 参加者:5名

活動内容:手作り蒸留器で蒸留体験(実習室2)

アロマテラピーで使う精油を抽出する水蒸気蒸留法。ハーブを熱してでた蒸気を冷やすという仕組みを、ホームセンターなどで買える材料で作った「手作り蒸留器」。少量のハーブから蒸留することができるので、今回はメンバーが、様々なハーブを持ち寄り蒸留してみました。ラベンダー、ローズマリー、レモンバーベナ、ハッカ、くちなしなど。山椒や新生姜、フキなどかわったものも蒸留してみました。採れた蒸留水は、それぞれ持ち帰り、化粧水などを作りました。

アランビク蒸留器は設置も大変で、ある程度の量のハーブが必要ですが、少量の材料から蒸留水を作れるので、とても面白い実験ができました。



**【参加者の感想】**

- ・今が旬の新生姜を蒸留してみましたが、とても爽やかで良い香りでした。
- ・いろいろなハーブの蒸留ができて面白かったです。
- ・植物そのものの香りと蒸留水の香りが違い不思議ですが、また家でも挑戦したいです。

**【活動予定】**

7月21日(金)、25日(火) 9:30~14:00 藍染体験(湖南省下田)



**(20) 虫架け**

**【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】**

グループ担当職員:今田 舜介

**【活動報告】**

■ 6月24日(土)18時~22時 参加者:9名 場所:大津市北比良イン谷口

灯火採集を実施しました。暑すぎず寒すぎずの天候の中、橋の上と少し離れた駐車場の二か所で虫が来るのを待ちました。コガネムシ、蛾、カワゲラ、ヒメカマキリモドキ、オオゾウムシ、ヘビトンボの一種などが見られ、オオミズアオがやってきた時には参加者から歓声があがりました。駐車場の方には終了直前にミヤマクワガタやコカブトもやって来ました。



また、「虫架け通信」56号と57号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

**LBM虫架けグループ**  
**虫架け通信 No.56**  
 2023年5月19日発行  
 ■5月例会報告  
 ■昆虫豆知識  
 ■LBM虫日記  
 ■記録・報告  
 ■最後に

**5月例会報告**

5月13日、マキノでの昆虫調査は空模様があやしいということで中止となりました。

**昆虫豆知識 (52)**

チョウが蛹になることを**蛹化**（ようか）と言います。一般に、どのような形態で蛹化するかに2種類があり、その形態の違いによって**帯繭**（たいよう）と**巻繭**（まきよう）に分けられます。**帯繭**は葉や枝（幹）から人工的な壁などに腹部の先端（糸蓋）に固定し、前胸部をベルト（帯糸）で身体を止めます。このタイプにはアゲハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、セセリチョウ科があります（以前の通信でアオスジアゲハの帯繭を紹介しました）。



帯繭（アゲハ）

一方、**巻繭**は腹部先端だけで身体を固定し、頭部を下にぶら下がるような形態の蛹化です。おもにタテハチョウ科がこれに属します。画像は博物館の敷地内で見つかったセドシチョウの巻繭と蛹です。



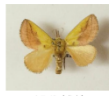
セドシチョウの巻繭（中川さん提供）



巻繭（ヒオドシチョウ）

**LBM虫日記 (19)**

博物館の敷地内の木々もだんだん緑が濃くなり葉が広がって来ています。最近やマガラの糞の出現頻度を聞いているのですが、その折廻り頃の二匹になると急に白い糞をしばしば見つけることがあります。これはイラガの糞で、中の糞が消化するとまっ白の部分が丸く開いたようになります（画像参照）。これはスズメの小糞たご（団粒）とも呼ばれることもありますが、たごは糞のことで、スズメがここで糞を足すと考えられて名づけられたわけですが、実際にはそのようなことはありません。もともとスズメの排泄物は糞尿混合と言われ、糞も尿と一緒に排泄しています。人のような哺乳類では尿素という水溶性の物質で排出しますが、鳥は尿酸という白い結晶で排出するため小さくすることはできません。わがしの想像力はたいへん豊かだったんだと改めて感心させられました。虫を観察するうえで想像力は大切ですね。



イラガ（成虫）



イラガのまゆ（穴があるのが小糞たご）

**記録・報告**

武田：今日の5日の日にも長浜市高浜町近江永楽にある湖畔に行ってきました。可愛いかみムシが落葉の下から出てきたので紹介します。

マキバヤシガメ科 アシトマキバヤシガメ *Protemna hilgendorffi*



**最後に**

5月13日は予想より雨の降りが遅くなり、結果的には屋外活動ができたかなと少々後悔しています。ただ今回は事前に遠退き山の中になりますので、山の天気ということで安全を優先して早めに中止判断をしました。ご容赦ください。

編集：武田雄・山本由里子

**LBM虫架けグループ**  
**虫架け通信 No.57**  
 2023年7月2日発行  
 ■6月例会報告  
 ■LBM虫日記  
 ■昆虫豆知識  
 ■記録・報告  
 ■最後に

**6月例会報告**

6月24日（土）18時～22時まで、大津市北近江インサイトでの灯火採集を実施しました。暑さや湿度の中、様の上と下し遅れた駐車場（岡田さんコーナー）の二か所で虫が来るのを待ちました。コガネムシ、蟻、カワグサ、ヒメカマキリモドキ、オオゾウムシ、ヘビトンボの一種などが見られ、オオムシアオやってきた時には歓声がありました。駐車場の方には終了直前にミヤマクワガタやコガタもやって来ました。

参加者：石田家、岡田、榎田（暫）、武田、中川、八森、山本の9名（五十音順、敬称略）



**LBM虫日記 (20)**

工場の田んぼにも数種類のゲンゴロウが発生しています。中でも私のお気に入りにはシマゲンゴロウで特に今年は個体数が多いように思われます。その他にハイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、オビゲンゴロウなどを見かけています。今年はまだ見つからないのですが、ヒメゲンゴロウもいるとのことです。他にトンボ類はもとより、ガムシ類、ミズシメ類、アメンボ類、イトアメンボ類や大型のタイコウチなどの水生半翅目類が数多く見られます。狭い田んぼのようですが、意外に多様であることが驚かれます。



**昆虫豆知識 (53)**

5月後半より大型テントウムシの幼虫が生活工場の周辺にいるとの連絡をもらい、産卵した田んぼの昆虫を見に行ってみました。遅くは夜になってオオムシの下にたくさん幼虫を確認しました。中川さんの話によるとおそろしくオオムシを食べるクルミハムシの幼虫を食べているのではないかとのことでした。調べてみるとカモノソクアブ（*Alopecia hexaspilata*）でした。テントウムシはおおむねアブ（アリマキ）やカイガラムシなどを食べる動物食の昆虫とされていますが、その食性は種類によって大きく異なり、動物食の種類、うどんこ病菌などを食べる菌食の種類、ナメコ類などを食べる菌食の種類など3つに大別することができます。とくに動物食のグループは腐食性や寄生性などアブラムシなどを食べることで昆虫とされ、それを利用して農薬の殺菌剤に使用される生体農薬として利用されてきたことがありますが、必ずしも害虫だけを食べてくれるとは限らず、さまざまな幼虫を食べるため問題になっていることもあるようです。



**記録・報告**

中川：5月27日に生活工場の田んぼでコガタノミズアブ（*Odotomyia garata*）を採集しました。これは京都府や三重県などで絶滅危惧種に上げられています。工場の田んぼも化学肥料などを使用しなくなった影響が出ているのかもかもしれません。



山本：6月中旬に武田さんと共通の友人と韓国に行ってきました。タンゴの山麓でジョウザンミドリシジミのみ、アカシジミのみ、キタエダシヤクなどを確認しました。



ジョウザンミドリシジミのみ葉の裏にいました。



キタエダシヤクを採集しました。

**最後に**

※今年の琵琶湖博物館の企画展「おこめ」です。それで田んぼに生息する昆虫の標本箱を用意するよう頼まれました。弊いにかけてやりますつもりです。（武田）

編集：武田雄・山本由里子

**【活動予定】**

1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。7月も灯火採集を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

（文責：伊東）



**(21) 森人(もりひと) 【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】**

グループ担当職員：林 竜馬

**【活動報告】**

■5月27日(土)10:00～15:00頃 参加者:(会員)3名 博物館職員)林  
 内容:道の駅こんぜの里りっとうから金勝寺周辺で観察会を実施した。林道沿いではイボタノキ、ガマズミ、ウツギ、エゴノキ、アカマツ、コツクバネウツギ、イワナシ、モチツツジ、ヤブムラサキ、サルナシ、マタタビ、ウスギヨウラク、ヤブニツケイ、ウメドモキに加え特に標高500m付近ではモミ、ツガ、アカガシ、シロダモ、クロモジ、ウリハダカエデが多く見られた。  
 草本はヤマタツナミソウ、タニギキョウ、マムシグサ、ミズタバコ、アギスミレ、ギンリョウソウなどが見られた。  
 金勝寺の東の谷筋では良弁スギの巨木、モミ、クリ、オニグルミ、アカガシ及びホウノキの大木やイワガラミ、シロダモ、ツバキ、コシアブラ、ヒイラギ、カヤなどが茂り湿気の多い林床ではクラマゴケ類、コケシノブ類などのシダ植物やヒノキゴケ、ミズゴケ類などの蘚苔類とともにモミ、シロダモ、コシアブラの実生がたくさん見られた。今回のコースは見るものが多く道半ばで終了となった。(太字は写真あり)



モミの球果



ツガの球果



アカガシ



良弁スギ



ウスギヨウラク



ギンリョウソウ

■6月10日(土)10:00~12:00頃 参加者:(会員)6名 博物館職員)林

内容:博物館の企画広報課から10/28(土)に博物館で実施するトヨタ関係のイベントで森人に屋外展示ガイドを依頼があった。これに対応するための計画立案を行った。未だ参加者数など具体的に決まっていない状況だが当日は時間の余裕がなさそう、親子連れのグループが対象との状況なので一方的な説明は避けいろいろな体験ができるようにする。例えばクイズラリーや植物の臭いや手触りなどあらかじめ9テーマを選びビンゴ方式で経験してもらおう方向で今後具体化していく。

■6月24日(土)10:00~15:00頃 参加者:(会員)4名

内容:竜王町の鳴谷池周辺で観察会を行った。商業施設の道路沿いから中善寺川の土手道にかけてはヒメハギ、ヤマアワ、カナビキソウ、コヒルガオなどの在来種と比べ、キバナノマツバニンジン、オオフタバムグラ、ブタナ、ヒメクマツヅラ、コモチナデシコ類、ホソムギ、ノハラナデシコなどの外来種が非常に多いと感じた。山道に入るとコマツナギ、アカメガシワ、テリハノイバラが花を咲かせヤマウルシ、イタチハギ、ゴンズイ、ナツハゼなどが実を付けていた。

湿地では新緑のウラジロが繁茂する中、モウセンゴケとノギランはほとんどが蕾で、平地では既に終わったサカキの花がまだ咲いていた。局所的に外来種のキバナノマツバニンジンが湿地に侵入し花を咲かせていた。ヘビノボラズは青い実を付けていた。今回はいろいろの環境下で生育する多くの植物をみることができ有意義な観察会であった。

(太字は写真あり)



キバナノマツバニンジン



ヒメクマツヅラ



ノハラナデシコ



コマツナギ



ヤマウルシ



サカキ

■7月8日(土)近江富士花緑公園での観察会は天候不良のため中止した。

【今後の予定】

◎7月22日(土)10:00~12:00頃 集合場所:研究交流室

内容:トヨタ関係のイベントの検討

◎8月は検討中



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

【活動報告】

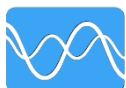
5月末以降も新たな活動はありませんでした。

このグループの初期に活動していたメンバーが2人、副担当の大塚のところを訪ねてきました。1人は珪藻と花粉を用いた古環境復元の研究をしていた高校生(当時)で、もう大学4回生になっていました。地質学の学識を活かせる職に就けることになったという、嬉しい報告でした。もう1人はミミズの土壌肥沃化効果を研究していた中学生で、当時は中学校1~2年生でしたが、もう高校2年生になっていました。今も同じ研究に取り組んでいました。実験デザインも年々整理され、今年の結果はきちんと統計解析にかければ強い結論を導けるだけの説得力あるものでした。

【活動予定】

3年あまりにもわたるコロナ禍で活動が停滞し、2019年以前に入会した会員はほとんど卒業してしまったので、もはや現役中高生の会員は時々研究相談に来る数名しか残っていません。再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思っていますが、4月末のはしかけ登録講座では、新会員は集まりませんでした。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方ははしかけ代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



SALON DE 湖流  
Lake Flow Museum

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】

■6月24日(土)13:30~15:00 新メンバーを迎えての打合せ

場所:琵琶湖博物館会議室

参加者:2名(はしかけ2名)

はしかけ登録講座の参加者に興味をお持ちの方があったので、コロナ禍以前の活動内容について説明し、どういうことに興味をお持ちなのかといったことをお伺いしました。

【活動予定】

■新しい方を迎えたことを踏まえて、改めてどのように活動を進めて行くかメーリングリスト等で協議しようとしているところです。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■令和5年5月11日(木) 10:00~12:00 晴 参加者 7名

1 活動先: 東近江市 下一色町、勝堂町

2 調査目的:

当研究会では、水が豊富な地域調査として、旧能登川町各集落の水資源利活用状況と各集落自体の持つ歴史特色などについて調査を続けている。今回は、その調査の補完として能登川地域と対照的に東近江市でも少ない水資源に苦勞された地域を訪ねて、足跡の一端を確認し、併せて渡来人の影響力があったと言われる当地の古墳群を見学した。

### 3 調査箇所:

① 押立神社(おしたて) まずは、湖東地域の中心場所の位置づけ神社(地域信仰の中心)。

中世の押立庄の総社であったという長い歴史がある。祭神は、火産靈神(ほむすびのかみ)と伊邪那美神(いざなみのかみ)。平安時代の天元元年(978年)に、当時、押立庄の下一色村に住んでいた文室康兼(ぶんやのやすかね)の屋敷の一部が突然陥没して池となり、霊水が湧き出てきた云われがあり、これを運命水と呼び、此の地に社を建てて、鈴鹿山系の押立山からご神体を遷した。その半年後には、現在の所に社殿を造営して下一色から遷座し、押立庄総社押立大明神として、地元だけでなく、円融天皇(えんゆう)、順徳天皇などの崇敬を集めてきた。押立山三瀬岳には神が宿った磐座があって、現在も春と秋には宮司らが登って祭祀を行っている。場所は、宇曾川ダム上流にある山比古湧水の上部の山中と言われている。(押立神社史より)

現在の本殿は鎌倉時代造営で重要文化財に指定されている。本殿の右横に比較的新しい校倉造の保管蔵がある。もう一つの重要文化財は、入母屋造りの大型の四脚門で室町時代前期の建立とされている。



□押立神社(重文)大門



□校倉作りの保管庫



□押立神社拝殿

② 運命水神社(押立神社の故地) 平安時代の天元元年(978年)、当時、下一色に住まっていた文室康兼の邸宅の一部が突然池となって霊水が湧き出てきたので、康兼はこれを運命水と名づけ、押立山三瀬岳からご神体を遷して運命水神社を建てた。その半年後、社は北菩提寺へ移されたが、神霊がここに留まっているので、現在も押立神社の境外摂社として祀られている。社の境内には、運命水の池が今も存在している。湧き水も確認できるが、深く採水はできない。池の淵には自然と龍の形になっている変形の松が見られる。これも神秘的な事象だと感じてしまう。



□運命水神社の石碑



□運命水の池



□屈んで入る低い門

③ 神の池 下一色町一帯は古くから農業用水が不足する地域であったので、この地出身の松居泰次良さんが資金を出して、大正14年(1925年)に、集落の東の一角で水を汲み上げるためボーリング工事を行った。着工から2か月後に水が噴き出して工事が成功し、その後、ポンプで揚水して田圃に水を供給したため、農家の人たちは喜んで、ここを「神の池」と名づけ、水利組合をつくって用水を管理した。当時としては、全国的にも数少ないといわれて貴重な揚水施設の遺構であり、農業を支えた文化遺産として、市の史跡に指定されている。1980年上流部に宇曾川ダムが完成して用水確保できるようになったことで、55年間の地域揚水施設機能を終えた。入口横のレンガ造りの構築物は地下水貯水場で、毎年8月13日に神主による水神祭が執り行われポンプを移動して水を汲み上げており、地下水は今も流れている。(湖東地区まちづくり協議会パンフより)



□神の池の貯水槽(レンガ製)



□勝堂古墳群(赤塚古墳)



□勝堂古墳群(弁天塚古墳群)

- ④ 勝堂古墳群の範囲は、勝堂町の集落のほぼ全域に及ぶ広いもので、江戸時代には 48 基の古墳が存在したと記録されている。昭和初期に出版された「近江愛智郡志」には八箇所と書かれているが、現在は県の史跡に指定されている赤塚・弁天塚・おから山・行者塚の 4 つの古墳など 6 基が残っている。勝堂古墳群は、古墳時代後期(6 世紀後半から 7 世紀前半頃)の築造で、その規模などから、この地域を開発した渡来系の依智秦氏(えちはたうじ)の首長クラスの墳墓と考えられている。

#### 4 気づいた点

- ① びわ湖の湖東地域は、古代の縄文、古墳時代から気候にも恵まれ、多くの人々が生活していたことは、数々の現存する縄文遺跡群、また古墳群でも明らかである。びわ湖湖岸は水資源の恩恵を受けていたのであろう。
- ② しかし、人口の増加、村の形成等での生活圏が湖岸から離れていく過程で、古代、中世、近代を通じてそこに暮らす人々の知恵が生み出された。河川以外からの水資源(生活用水・農業用水含め)を確保するため、井戸を掘り、湧水場所を探索し、その場所を神聖な社として祀り、また、在家の資産家が自己資金を投じて揚水施設を造営し、近年まで活用されていたことなどには時代を超えた驚嘆の世界である。

■ 令和 5 年 6 月 8 日(木) 10:00-12:00 晴 参加者 7 名

1 活動先: 東近江市勝堂町・小田苅町・上岸本町・鯉江町・妹町

#### 2 調査目的:

前月に調査活動の継続で東近江市の愛知川流域での水資源を確保してきた先人の足跡・遺産に焦点をあてて調査を行った。当地に残る古墳群の確認に加えて、湖東地域の田畑を潤し続けて来た灌漑用水路「井(ゆ)」と呼ばれる人工河川の現在の姿、更には地域の地形の特色である河岸段丘の現地確認を行って知見を深めた。

#### 3 調査箇所

##### ① 勝堂古墳群の追加調査

6 世紀末頃の古墳群が 48 基残っていたとされる勝堂町古墳群で、未調査の朝日塚古墳と行者塚古墳を現地調査した。朝日塚古墳の説明板では昭和 29 年の集落整備事業の際に須恵器多数が発掘されたと写真入りで紹介されている。古墳の本体は写真の奥側にあり、直径 30m 程度の円墳であったと言う。現在は説明板の横にコンクリート製の小さな社があり、中に 10 体近く石の地蔵さんが祀られている。朝日塚古墳から路地を 100m 程入った所、集落の中に高さ 5m 程度の行者塚古墳がある。裾の周囲は 10m 角程度の円墳(現在は周囲の民家の境界が食い込んでいるので方墳のようにも見える)であったもよう。路地脇に最近建てられたと思われる「大峰山役者堂」の石碑と、中腹には、はっきりと読み取れない石碑があり、頂上部に残る石を積み上げた基礎跡は大峰山ゆかりの役者堂が祀られていた跡と考えられる。頂上は周囲の住宅の 2 階屋根と、ほぼ同じ高さで、新旧の民家の敷地が墳丘の裾に食い込むように立ち並んでいる。

##### ② 愛知井(えちゆ)調査。

愛知川流域の村々では、灌漑用水路のことを「井(ゆ)」と呼ぶ。愛知川両岸には 11 もの井があり、湖東地域の水田約 1530ha を潤してきた。愛知川の右岸には 7 つの井があり、その内 旧愛東町地域には愛知井・小倉井・青山井・鯉江井・天明井の 5 つが流れていた。愛知井は、5~7 世紀にかなりの時間巾を持って渡来系氏族 依智秦氏(えちのはた)の治水技術で開発した用水路で、当時 井水を河岸段丘下から畑田方面へ導く大工事が実施されたと伝えられる。現在 愛知井の取水口は、上岸本町の愛知川地先の豊椋とよぐら 揚水機場の建屋 があり、ここから愛知川西幹線水路として北に向い、長町・清水中町を通過して愛荘町畑田へと続く全長約 4km のコンクリートで造られた水路が続いている。取水口横の土手に「神田井跡地」の小さな石碑が残っていた。小田苅町付近では市立湖東第 3 小学校の脇を複数に分岐して水田の高低に合わせた水路で流れている。この付近では、水路は民家のカワトとも繋がっており、流れにゴミの流入がほとんどない綺麗な水路であった。



□現在の灌漑用水路-1



□灌漑用水路-2



□河岸段丘にある春日神社の石壁

##### ③ 河岸段丘と妹(いもこ)集落調査。

元の妹集落は河岸段丘の下側に位置していた（江戸初期の絵図に残る）が、宝暦 6 年(1756)に洪水が発生した際、段丘の上側への移住要望を受けて、以降段丘の上部にも集落が広がったと言われている。愛知川流域の河岸段丘は地域の集落名を取って百済寺面、園面、妹面と呼ばれ 高低差が最も顕著に判る段丘は、国道 307 号が通り抜けているこの妹面である。段丘の西側下部に春日神社が鎮座している。奈良春日大社の分祀で、旧鯉江郷は 興福寺の荘園であったとの事で、本殿正面の彫刻や石灯籠に鹿の彫刻がみられる。また河岸段丘上に位置しているので、下部の鳥居から社殿へは石段を登って拝殿、更に石段を登って本殿へと 3 階建て状に建物が配置されている。しかも各段の石積は愛知川の河原から集めたと思われる丸味を持った比較的小さい石が整然と積まれている。

④ 鯉江城址調査。

愛知川の河岸段丘を活かして築かれた平山城であるが、室町時代（1573）鯉江郷を治めていた鯉江貞景が織田信長との戦いで敗れて落城したと案内板に表記されていた。

⑤ 豊椋集水渠調査。

愛知川の水流の一部が、豊椋揚水付近の右岸側に誘導され、愛知川西幹線の主流水となって利用されている。



□春日神社の本殿



□鯉江城址の石碑

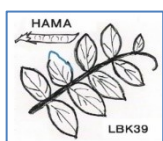


□豊椋集水渠からの水路

4 気づいた点

- ① 先月同様、同地域における古墳群の多さには驚かされる。おそらく地域有力者が群雄割拠していたのであろう。仁徳天皇陵ほどの大きな古墳はないが、大阪府下の泉州地域での古墳群にも匹敵するほどの数が存在しているのではなかろうか？
- ② 愛知井は、まさに当時の土木技術の粋を極めたものであっただろう。その立役者は、正に渡来人である。渡来人の持っていた技術こそが、この時代の発展を遂げた大きな要因といって過言ではない。溜池の造営、用水路による治水など現在でのその痕跡が残っていること自体がすばらしい。

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

\*2023 年 5 月 26 日(金)9 時 30 分~11 時 30 分

天気:曇り一時小雨 気温:20℃ 琵琶湖の水位+2 cm 参加者:4 名

観察状況

- \*曇り空。対岸の山々はくすんでいる。少し波はある割に水はきれい。また、浜かけが進んだか？
- \*小雨が作業前と後にぱらつくが、暑くなく良好な作業日。この日ネナシカズラは見当たらない。

定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ群生



ハマゴウ群生

## 活動内容

\*しが NPO 事務局の北井さんが来訪され、活動状況の取材を受ける。

活動開始年・参加者・活動内容と課題・成果・これからの活動予定等

\*保護区内及び浜の除草:ツルニチニチソウの撤去地にカヤ、スズメノテッポウ、ハコベ、ツユグサ、メマツヨイグサ等が一斉に生えかけた。

## 海浜植物

- 1) ハマエンドウ : 花はほぼ終わり、種の鞘ができている。今年はレンゲを植えハチや昆虫による受粉を試みた。期待したとおり?レンゲを植えた近くには種の鞘がたくさんついている。昨年多かった保護区西側ロープ付近にはまだ見当たらない。来年もう一度レンゲを植えて成果を検証したい。
- 2) ハマゴウ : 浜全体に緑が広がっている。花芽はまだ見えない。
- 3) ハマヒルガオ : 浜かけが一段と進み、むき出しになった地下茎が一直線に伸びている。花が咲く面積が狭くなり花数も少ないように思われる。



ハマエンドウの花



ハマエンドウの種鞘



ハマゴウ



ハマヒルガオ



むき出しにされたハマヒルガオの地下茎



北井さんとの取材風景

\*2023年6月6日(火) 9時30分~11時30分

天候:曇り 気温:20℃ 琵琶湖の水位+27cm 参加者:7名 訪問者:宇野さん・水野さん

## 観察状況

\*曇り空。対岸の山々がうっすら見える。さざ波が静かに押し寄せている。木陰にいと肌寒さを感じる。しかし動きやすく作業には適した気温。元ネイチャーズの宇野さん、水野博人さんが来られる。

\*水野さんがこの活動に参加してくれることになった。

## 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ群生



ハマゴウ群生



## 活動内容

### \*ミーティング

\* 保護区内及び浜の除草。今回はコマツヨイグサ、メマツヨイグサを中心に除草

\* 枯れた松の伐採 (1本)

\* ネナシカズラを昨年と同じ場所で1カ所発見。駆除。ムシトリナデシコ、オオキンケイギク駆除

## 海浜植物

- 1)ハマエンドウ : 花は終わり、種の鞘ができています。葉が黄色くなりかけた株もある。
- 2)ハマゴウ : 浜全体に広がり枝が張っているが花芽はまだ見えない。緑が一段と濃くなった。
- 3)ハマヒルガオ : 花数は減り種がついている。今咲いている場所より1mぐらい湖に近い所に新しく葉が出始めた。



ハマヒルガオの種



弦を伸ばすネナシカズラ

## 宇野さんの話

- ①ツルニチニチソウは竹林の中に有る通路まで駆除したい。刈取ことで拡散スピードを抑えられる。
- ②抜いた草はツルニチニチソウの上に広げて捨てたらどうか？
- ③保護区の東にハマゴウの大群落があったが除草剤散布が行われ激減。数株残っていることを確認。
- ④ユークループの担当者が代わったので③を案内し、保護区の看板設置を依頼した。
- ⑤切り取った枯木の山の撤去(運び出し)も依頼した。
- ⑥東側にオオキンケイギクの大群落があり、根から抜き取りしている。
- ⑦松林の中下枝切りでハマゴウ・ハマエンドウが広がった。チガヤも増えたので少し減らしたい。
- ⑧保護区の中に松の幼木が生えている。割りばしを立てて養生しているので踏まないよう注意下さい。
- ⑨ハリエンジュが広がってきた。駆除が必要。
- ⑩最近保護区内にヒヨドリがきている。ハマエンドウの種をついているのか？

\* 2023年5月6月16日(金)9時30分~11時30分

天候:曇り 気温:23℃ 琵琶湖の水位-14cm 参加者:6名

## 観察状況

\* 曇り空。対岸の山々の山頂付近は雲がかかっている。雨の後だからだろうか？水は濁り波も荒い。

\* 心地よい風と時折の暖かい太陽に作業に適した活動日。

## 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

## 活動内容

- 1)ミーティング(これからの活動について)
- 2)保護区内及び浜の除草。今回もコマツヨイグサを中心に除草
- 3)ネナシカズラ 2カ所駆除 虫こぶができてはじめた。前回より1カ所増えた。  
ムシトリナデシコ、メリケンムグラ、メドハギ駆除

## 海浜植物

ハマエンドウ : 花は終わり、種の鞘ができています。落ちていた鞘もある。葉が黄色く枯れた株もある。

ハマゴウ : 浜全体に広がり枝が張っているが花芽はまだ見えない。緑が一段と濃くなった。(あまり前回と変わりなし)

ハマヒルガオ : 花数は減り種がついている。今咲いている場所より1mぐらい湖に近い所に新しい葉が伸び始めた。



ハマエンドウの鞘。青い鞘(左)



黒くなった鞘(右)



ハマヒルガオが伸びかけた浜

\*2023年7月4日(火) 9時20分~11時40分

天候:晴天 気温:27°C(AM9:00) 31°C(最高気温) 琵琶湖の水位-15cm 参加者:4名

### 観察状況

\*日当たりの良い場所は暑い風がふいている。湖面は穏やか。

### 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ群生地の除草



ハマゴウ群生地の除草

### 活動内容

- 1)管理区域の湖岸にあるハマゴウの除草作業。(日当たりが良く暑く感じる)  
チガヤ、コマツヨイグサ、メリケンムグラなど。
- 2)ハマエンドウの管理区域内外の除草作業
- 3)保護区域内のハマエンドウの生育確認作業。花はとっくに終わり、種子も見当たらない。  
枯れ始めたハマエンドウが目立つ状況で、除草した場所も除草していない場所も同じ状態でした。
- 4)アメリカネナシカズラは発見されず。(除去作業の効果が出始めていると思われる)

### 特記事項

#### 1)大槻さんのコメント

本日、琵琶湖博物館の大槻さんが来所。西湖のヨシ観測の途中で立ち寄られた。

今春、実施したレンゲ草に寄ってきた昆虫類によるハマエンドウの受粉活動は一定の成果があったと思われる。レンゲ草設置近辺のハマエンドウの種子が他の場所より大きい傾向。但し、隣接の柵周辺に育成しているハマエンドウの種子は例年より少ないように感じる。

\*来年度も昆虫活用の為「レンゲ草」の設置継続と設置場所の拡大を提案された。

#### 2)宇野さんからのコメント

- ①「ハマゴウ」は愛知川河口より湖岸に沿って、東に約1kmの長さでハマゴウが育っている特にハマエンドウ保護区域周辺の湖岸に生えるハマゴウは元気に育っている。第2浜の「ハマエンドウ」は水位上昇時(+30cm)に強風による波の影響で浜欠が起これハマエンドウの姿が見られない。(湖岸のプラゴミ漂着も影響しているかも)

\*後日、宇野さんが現地を確認作業を行うと言われているが、一緒に活動したいと思います。

- ②ハマゴウと共生しているチガヤの除草について

結論として、ハマゴウの育成には「チガヤ」の除去は必要である。理由として、チガヤをそのままにしておくと、冬季に枯れたものが地面に倒れ、除草しないと、そのまま枯れたものが積み上がり、ハマゴウの生育環境が悪化すると推測される

## その他

次回の作業日は7月21日(金)9:30分からであるが、当日はレイカディア大学草津校の大学祭が開催されており、9:00からの開始を検討してはどうか。

## 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月~10月)

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け (1)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	9/3	日	10時30分 ~12時30分	生活実験 工房	(受付時間 10時00分~)
ちこあそ・9月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。 毎月第3水曜日に実施しています。(8月はお休み)	9/20	水	10時00分 ~14時00分	生活実験 工房	※事前申込みの上、10時~14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け (2)	生活実験工房の施設や利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	10/8	日	10時30分 ~12時30分	生活実験 工房	(受付時間10時00分~)
里山体験教室 (第3回)	博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう!	10/15	日	10時00分 ~15時00分	野洲市 大篠原	※4回開催分一括申込です。1回分だけの申し込みはできません。 ※少雨決行
ちこあそ・10月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。 毎月第3水曜日に実施しています。(8月はお休み)	10/18	水	10時00分 ~14時00分	生活実験 工房	※事前申込みの上、10時~14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
ふらっと自然観察 in 湖西	身近な自然のなかで、自然に触れる楽しさを体験したり紹介したりします。自然のなかで「ふらっと自然観察」を通じて自然と暮らしの知恵を楽しく発見する場です。	10/29	日	10時30分 ~12時00分	針江浜園地 (高島市 新旭町針江)	

## 4. 生活実験工房からのお知らせ

7月30日には生活実験工房周辺にて昆虫採集のイベントを実施しました。虫架けメンバーの皆様、応援ありがとうございました。大変暑い日でしたが、お子さんたちは元気に昆虫を追いかけしていました。最後のまとめの時間には、お子さんから活発な意見がたくさん出て、とてもよい観察会となりました。

昆虫採集が終われば、伸びきった雑草の草刈りを行う予定です。そして、9月、10月は稲刈りです。皆様のご参加をお待ちしております。

今後の工房でのイベントの予定は下記のとおりです。  
(参加は予約制になりますので、ご注意ください。)



田んぼ周辺で昆虫採集

### 【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房  
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 9月 3日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月 8日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 12月 17日(日) しめ縄づくり
- 2月 4日(日) わら細工

担当：環境学習・交流係

## 5. その他の事項

### (1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。